

Message from a Globalist

1

[海外で活躍したい君へ]



原田 泳幸 さん
日本マクナルド株式会社
代表取締役会長 兼 社長 兼 CEO

PROFILE

はらだ えいこう / 1948年生まれ。
東海大学工学部通信工学科卒業後、
日本NCRに入社。ヒューレット・パッカ
ード社を経て、90年アップルコンピュータ
ジャパン株式会社入社。97年アップル
コンピュータ株式会社代表取締役社長
に就任、苦境といわれた時期に経営の
トップとして手腕を発揮した。2004年日
本マクナルドCEOに就任、異業種へ
の転身が話題となる。

名古屋国際の近くでも馴染みのマクナルド。

国際生や学内関係者もよく利用する

世界的に有名なファーストフード店の原田社長が、
本校を訪問されました。

実は原田社長の前職は、私たちが使用している

アップルコンピュータの社長でもあります。

メディアで「マック (Mac) からマックへ」と脚光を浴びた
グローバルリストから、国際生へのメッセージをいただきました。

グローバルプレイヤーに大切なのは、
日本のすばらしさを知り、
日本に誇りを持つことです。

現在の世界はボーダーレスであり、外資系企業だけでなく、すべての日本企業がグローバルな競争にさらされています。そのような世界で、グローバルプレイヤーになるためには、英語を話せることはもちろんですが、それ以上に文化の違いを知り、他の文化を理解し、尊重し、そしてコミュニケーションをとっていくことが求められています。まず、グローバルな人材は自国の文化を知らねばなりません。自国の文化を知らずに、他国の文化を理解することはできません。日本のすばらしさを知り、日本に誇りを持つことが、グローバルプレイヤーには必要です。また、この世の中は自分一人で生きていけないものではないことを知ることも必要です。人は助け合いながら、支え合いながら、学び合いながら、生活しているものです。個人は企業に貢献し、給料をもらう。企業は社会に貢献する。皆さんは自分が何に貢献しているかを考え、そして自分を支えられている方々への感謝を忘れないでほしい。もうひとつ、基本が大切であるということ覚えておいてほしい。新しいことをやるときに、基本を忘れがちになります。ところが、基礎力を高めてこそ、新しいことができるのです。基本に立ち返ることが、企業を支えるのだと私は常に社員に言っています。

さて、なぜ皆さんは学校で勉強するのでしょうか。勉強して優秀な成績を収める、いい学校に入る。これらはゴールではなく、自分の可能性を広げるためのプロセスなのです。テストで100点を取ることは、ゴールではなく自分の将来を広げることなのです。知識の記憶だけではなく、広い視野を持って、自分で考え、探求し、発見することが知恵につながり、社会人になって役立ちます。どうか皆さん、健康で、そして若者らしくこれからの学校生活を送ってください。❏

Pick up Feature

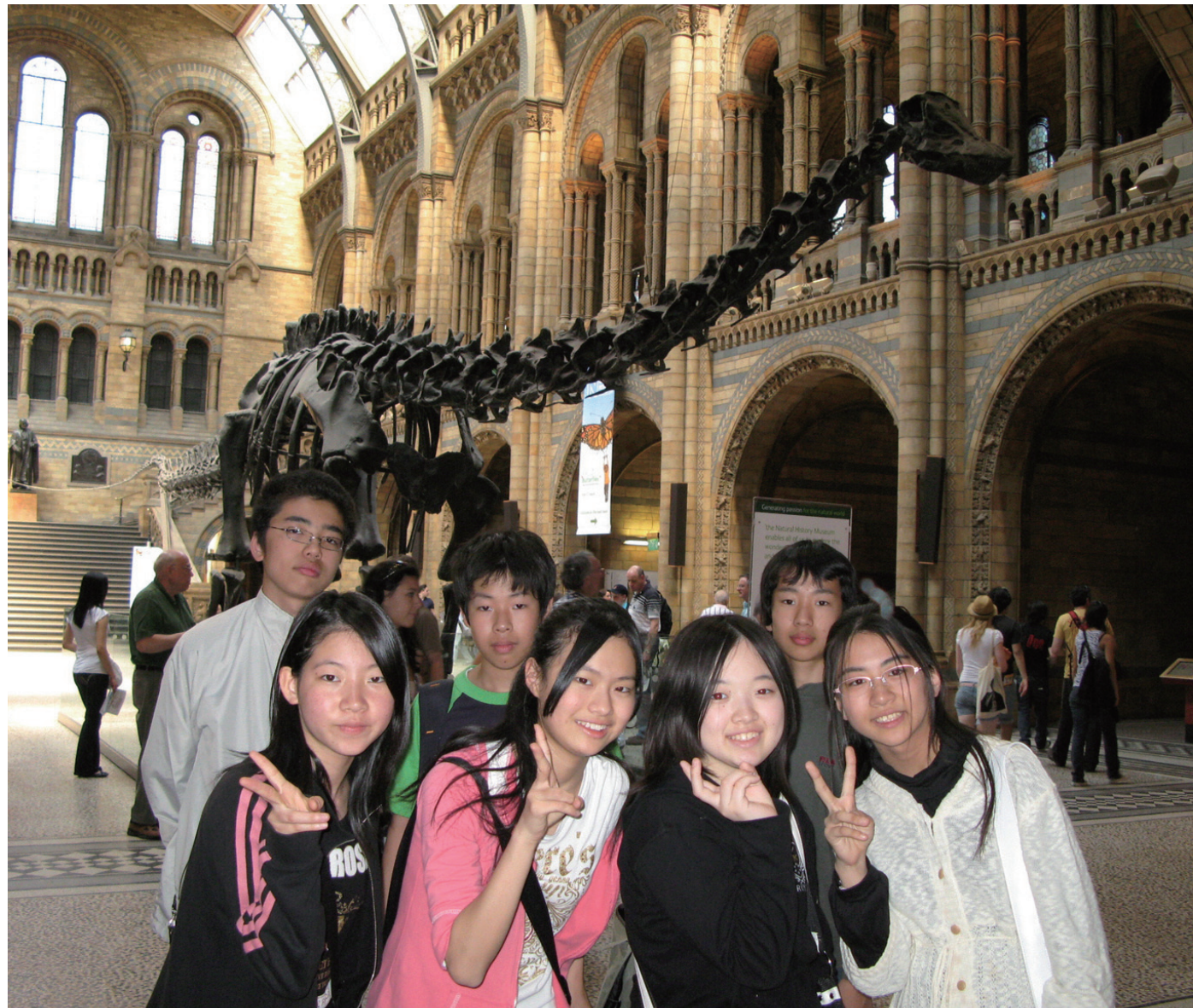
ロンドン語学研修で育む 国際教養力。



ヨーロッパの歴史を 肌で感じられる英国ロンドンで、 国際生が吸収したものとは？

ロンドン語学研修が、5月8日(後発グループは9日)から5泊7日の日程で行われました。セントレアから空路、成田へ。そこからヒースロー空港まで約12時間。はじめて飛行機に乗るという生徒もいて、機内にはウキウキムードがあふれていたものの、引率教員の心配をよそに、機内での態度はなかなか落ち着いていたものでした。初日の全体行動で訪れた「キューガーデン」「グリニッジ天文台」「ロンドン塔」「ストーンヘンジ」では、ガイドさんたちにとても詳しくわかりやすい解説をしていただき、研修旅行として中身の濃いものになりました。もうひとつの全体行動である「バース大学訪問」では、素晴らしい施設を使用して、柔道、テニス、ホッケー、

サッカー、バスケットボールの種目を大学のコーチや学生たちに指導していただきました。柔道部の中西龍二くん(一貫2年生)は「乱取りをしました。技の切れがすごい!」と世界を肌で感じる事ができたようです。また、茶道部が抹茶を点てて日本の文化を紹介しました。3日間にわたって行われたグループ行動では、1年生の頃からじっくり時間をかけて練られた計画が実行されました。それぞれのグループが計画に沿って2日半にわたる活動を有意義に過ごせたわけですが、すべてが思い通りに進んだわけではなかったようです。地下鉄のチケットを買うのに「子供料金」がよくわからず、およそ3倍もする大人用のチケットを買ってしまったり、自分では一生懸命にしゃべった英語がうまく伝わらず困った思いをしたり。グループ行動の食事は自分たちで食べるわけですが、多くの生徒たちは日本で慣れ親しんでいるマクナルドや、会話の必要のないスーパーでの調達でほとんど済ませていたようです。教員としては、どこかのレストランに入り、失敗を恐れずに英語でのオーダーにチャレンジしてほしいだけに少々残念でした。



▲自然史博物館にて

生徒たちが驚いたこととして、「物価が高い」「1回の食事がたいてい1000円を超えてしまう」、「公園が広く、リスがめっちゃくちゃ近くで見られた!」、「どこを見ても歴史が感じられる。いかにも外国って感じ」、「前を歩いている人が、扉を開けて待っていてくれる。聞いている人が、さすが紳士と淑女の国だと感心した」、「イケメンと美女が多い」などなど。それぞれにたくさんのご意見を吸収してきたようです。



オプションの「ティーパーティー」では、招待していたいた英国家庭の方からのアドバイスをもとに、スコーンやサンドウィッチを作り、楽しいティータイムが過ごせました。もうひとつのオプション「オックスフォードハウスカレッジでの語学研修」では、英語にあまり自信のなかった生徒たちも楽しく参加できる内容で、講義が展開されました。「今までに習った英語が通じて嬉しかった」という思いよりも、「自身がなくて英語をあまり使えなかった」「はっきりと伝えることができてなくて悲しかった」という思いを抱く生徒が多かったのですが、その経験がこれからの英語学習に臨む姿勢に現れてくるだろうと期待しています。❏

「解散式での生徒挨拶」から

今まで両親と離れて生活をしたことがなかったから、今回のロンドンとはとても不安でした。また、私は足がよくないので、この足で最後までもつのかも不安でした。しかし、多くの友達と先生方、添乗員の方々など、多くの人たちに支えられ、最後まで楽しく活動することができました。グループ行動で、何度か英語を使うことがあったのですが、ちゃんと通じた時もあれば、しっかり伝わらず、寂しい思いをしたこともありました。今回の語学研修での経験を活かして、これからの学校生活をさらに有意義なものにしていきたいと思います。❏
佐藤愛加さん(一貫2年生)



▲グリニッジ天文台を背景に



▲ロンドン市街をグループ行動で散策

Thinking about the Future

[国際生OB OGから現役国際生へ]

● Message to students ●

「今」という時間はもう 一生帰ってこない

2007年度卒業生

名古屋商科大学 経営学部1年生 杉浦 圭くん

国際生のみなさんこんにちは。私は2007年度卒業した後、名古屋商科大学へ入学しました。名古屋国際高校に在校していた頃、私は進んで委員会などに立候補したり、第2年次にある生徒会選挙に生徒会会長として立候補したりしました。本校の校訓である『FRONTIER SPIRIT (フロンティア・スピリット)』を信念に、自分の資質を自分で見だし、どのように社会に貢献するか、自分を試すためにも高校3年間何かに打ち込もうと考えました。その礎として生徒会会長という形で自分の持っている力を最大限にいつでも発揮しようと決めました。いつでも私は『今』とい

う時間はもう一生帰ってこないと常に思い行動しました。国際生のみなさんにも、1日1日を部活に打ち込むのもよし。勉強に打ち込むのもよし。とにかく目標を持って大切に3年間と短い高校時代を過ごして欲しいと思います。この混沌とした社会情勢の中で成功者になるカギは自分が築き上げた大学卒業までに身につけた経験です!机の上だけの勉強が全てではなく世界を旅し、例えば貧困を実際に目の当たりにしたりと、生きた勉強だって将来大切な経験の1つになるでしょう。この先の社会で必要なのはスキルです!今すぐにでも立ち上がって1人1人が見つけたテーマに突き進もう!

※私は今ヨーロッパで名古屋商科大学の留学プロジェクトの1つである『ギャップイヤープロジェクト』に参加しています。ギャップイヤープロジェクトとは大学に入学してすぐにギャップイヤー選抜試験に受かった生徒が世界情勢の中で感じたことを研究テーマとして、そのテーマに合ったヨーロッパの国々を回り研究、調査、報告するプロジェクトです。❏



▲スイスのマッターホルン。壮大な雪山が目前にそびえ立つ



▲TPCA (Toyota Peugeot Citroen Automobile) のチェコ工場社長の高橋さんと国際生OBの伊藤君とともに



◀スイスのツェルマツト駅にて



“Louis, I think this is the beginning of a beautiful friendship.”

(ルイ、これが友情の始まりだな)

このフレーズは映画「カサブランカ」のなかで、リック(ハンフリー・ボガード)がルイ(クロード・レイナス)に言った言葉です。リックはドイツとの戦い(第二次世界大戦)に巻き込まれたくないと思っているアメリカ人であり「人の為に危険を冒したりはしない」考え方を持った男です。一方、ルイはドイツに協力しているフランスの警察署長です。映画の終末までには二人の考え方は次第に変わっていきます。二人は協力者となり、共にドイツと戦います。ラストシーンでリックはクロードに腕を廻し、この有名なフレーズを口にします。この映画は1942年に製作された、おそらく史上最高の宣伝(プロパガンダ)映画です。興味を持った国際生は一度ご覧あれ。❏

This line is from the film “Casablanca” and is spoken by Rick (Humphrey Bogart) to Louis (Claude Rains). Rick is an American who does not want to be involved in the war against the Germans (World War II). He says, “I stick my neck out for nobody.” Louis is a French police chief who collaborates with the Germans. By the end of the movie, both Rick and Louis have changed. They become allies and together will fight the Germans. Rick puts his arm around Claude in the last scene and says the famous line. The movie was made in 1942 and is probably the greatest propaganda film of all time.❏